

燃料 無鉛レギュラーガソリン

エンジンオイルは
入っていません。

以下の工具をご用意ください。
12mmのスパナ（ペンチやプ
ライヤー）、ワイヤブラシ

安全に正しくお使いいただくために、ご使用前に
本ガイドとWEB取扱説明書を必ずお読みください。
ご使用前に「安全上のご注意」を必ずお読みください。

詳細は
カラー版のWEB取説
をご覧ください



ハイガー株式会社はSDGs・カーボンニュー
トラルの取組の一環として、紙の取扱説明
書を大幅に削減いたしました。
どうぞご理解ください。



安全上のご注意

お使いになる人や他人への危害・財産への損害を未然に防
ぐため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■表示内容を見逃して、誤った使い方をしたときにおよぼす
危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

警告 この表示の欄は「死亡または重症を
負う恐れがある」内容です。

注意 この表示の欄は、「軽症、物的損害、故
障が生じる恐れがある」内容です。

■お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明
しています。

禁止 このような絵表示は、してはいけない「禁止」
内容です。

強制 このような絵表示は、必ず実行していただく
「強制」内容です。

日々製品（部品やカラーも含め）の改良を行っています。
そのため、予告なく仕様を変更する場合があります。

警告（製品に係る安全事項）

禁止	強制
エンジンが熱いうちは、給油しないでください。	ご使用前にこの説明書をお読みになり取扱の注意事 項をよくご理解の上ご使用ください。
燃料が漏れたり、こぼれたままエンジンをかけない でください。	騒音から耳を守るため、適切な保護具を使用してく ださい。
運転時、給油時は、喫煙など火気を発生させないで ください。	運転中は、排気ガスに十分注意してください。
換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。	燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して、屋 外の換気の良い場所で行ってください。
回転部分のカバーを取り外して運転しないでくださ い。	燃料をこぼさないように注意してください。
エンジン回転中及び停止後しばらくの間はエンジン やマフラーなどが熱くなっていますので触れない でください。	燃料がこぼれた場合は、直ちに拭き取ってください。
改造、分解は絶対に行わないでください。安全性・ 信頼性が低下したり故障の原因になります。 また、当社の保証サービスは一切受けられなくな ります。	燃料キャップは確実に閉めてください。
当社が供給するアタッチメント以外は使用しないで ください。	エンジンを開始するときは、周囲に人や動物がいな いことを確認してください。
農園芸用薬剤の噴霧を目的にしています。指定され た用途以外には使用しないでください。	

⚠警告（製品に係る安全事項）

 禁止	正しい操作を知らない人、子供、妊娠中の方には操作をさせないでください。	 強制	始動前点検を実施してください。
	未成年者の単独使用は禁止です。保護者等の監督下で作業してください。または、操作の仕方をよく分からない成年者でも独自の使用は避けてください。		

⚠注意（製品に係る安全事項）

 禁止	指定された用途以外には使用しないでください。	 強制	燃料は無鉛レギュラーガソリンを使ってください。
			長期間使用しない場合は、燃料タンクの燃料を抜き取り、火気のないところに保管してください。
			給油中、燃料タンク内に雪や水が入らないように注意してください。
			部品交換は、純正部品を使用してください。
			本機をご使用になる前に、エンジンの始動、停止の仕方を覚えてください。
			定期点検整備を行ってください。
			子供の手の届かない安全な場所に保管してください。
空運転はポンプを傷めることがあります。			

⚠警告（作業に係る安全事項）

 禁止	身体の調子が悪いとき、判断力に影響するような酒類、薬物を服用して使用しないでください。回転部分に顔や手足を近づけないでください。	 強制	本機から離れるときは、必ずエンジンを停止してください。
	ご使用時は、子供、動物、ペットを近づけないようご注意ください。		危険を感じたり、予測される場合も、必ずエンジンをすぐに停止してください。
	夜間、悪天候時、霧の発生時など、視界が良くないときは使用しないでください。		使用前に接続部のパッキンの脱落がないこと、ネジの緩みや欠落した部品などがいないこと、ホースに亀裂、摩耗、破損のないこと等、各部に異常がないことを確認してください。
	足元が滑りやすい、転倒しやすい場所では使用しないでください。		やけど、火災の恐れがありますので強酸性の薬剤・シンナー・ガソリン・ベンジン等は絶対に使用しないでください。
			気温が高いときの作業は避けてください。
			薬剤の使用にあたっては、薬剤の説明書に従ってください。

⚠️ 警告（作業に係る安全事項）

 禁止	燃料タンク内に燃料を入れたまま運搬、保管しないでください。	 強制	吸水ホースには、必ず備え付けのストレーナ（こし網）を取付けてください。
			こぼれた薬剤をその場できれいに拭き取ってください。
			突然の噴霧を防ぐため、エンジン始動時は、グリップを閉じた状態にして行ってください。
			散布作業中は常に風向きを考え、風上から風下に散布して薬剤が体に直接付着しないように十分ご注意ください。
			使用後は水を吸水しポンプを数分間（2～3分）運転し、ポンプ、ホース、ノズル等の内部に残っている薬剤をきれいに流してください。
			薬剤は必ず調合してから容器に入れてください。

⚠️ 注意（作業に係る安全事項）

 禁止	機械の稼働部分に絡まるような衣服は着用しないでください。	 強制	薬剤の吸入や付着による事故を防ぐため、帽子、保護メガネ、保護マスク、ゴム手袋、長袖、長ズボン、ゴム長靴を着用し皮膚が露出せず危険のない服装で作業を行ってください。
			屋内の直射日光が当たらず、風通しがよく、凍結しない、子供の手の届かない場所に保管してください。
			エンジンがかかっている状態で本製品から離れないでください。
			自動車等で運搬される場合は、本体が傾かない状態に固定してください。

各部の名称



梱包部品一覧

1. ユニットとすべてのアクセサリを慎重に箱から取出し、全てのユニット・アクセサリに不足・問題がないことを確認してください。
2. 製品を注意深く点検し、輸送中の損傷がないことを確認してください。万が一損傷が見受けられた場合は、運送会社に1週間以内に連絡をしてください。
3. 梱包材を慎重に検査し、使用する前に廃棄しないでください。不足している場合は、お手数ですが弊社までご連絡ください。

警告

不足しているものがある場合は、不足している部品を入手するまで使用しないでください。

A. 本体		B. ストレートノズル	
			
C. グリップ	D. 余水噴出ホース	E. 噴霧ホース (20m)	
			
F. 吸水ホースとストレーナー	G. パッキン予備★	H. 異径金具	
			
I. プラゲレンチ	J. 工具★		
			

★印はサービス品です。予告なく同梱終了になる場合があります。ご了承ください。

※上記写真はプロトタイプのため、製品仕様と異なる場合や部品が本体に取付済みの場合があります。

■ご用意いただくもの

運転する場合に必要なもの

- ・無鉛レギュラーガソリン
- ・4ストロークエンジンオイルSAE10W-30
- ・漏斗（じょうご）

グリップの取付けに必要なもの

- ・12mm スパナまたはペンチやプライヤー

点検・整備に必要なもの

- ・ワイヤブラシ

噴霧する場合に必要なもの

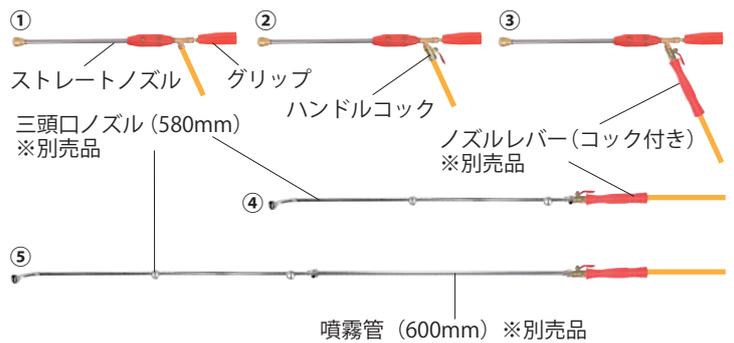
- ・噴霧する薬剤を入れる容器

主要諸元

モデル名	HG-JTPPS5080
エンジン	空冷4ストローク
エンジン出力	1.47kW/7000min ⁻¹
燃料	無鉛レギュラーガソリン
排気量	47.9cm ³
吸水力	3.3-12L/min
噴霧力	最小噴霧力3.0MPa 最大噴霧力7.0MPa
燃料タンク容量	0.63L
エンジンオイル	SAE 10W-30
エンジンオイル容量	0.13L
燃費（目安）	0.85L/h
騒音レベル	110dB
重量	約14kg
サイズ （幅×奥行×高さ）	400 × 380 × 360mm

◎弊社は、顧客満足度100%を目指し、日々製品（部品やカラーも含め）の改良を行っています。そのため、予告なく仕様を変更する場合があります。また、取扱説明書に最新情報が反映されない場合があります。ぜひご理解・ご了承ください。

ノズルの接続パターン



組立て

警告

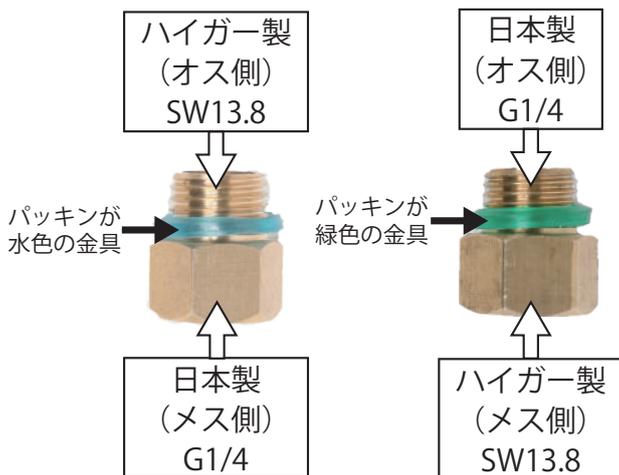
- 組立てを行うときは、必ずエンジンを停止してから行ってください。
- 作業中にエンジンを始動するようなことは絶対にやめてください。また周囲に子供や動物が近づかないよう配慮をお願いします。

注意

- 各接続部には、パッキンが付いていることを確認してください。
- 接続部より液漏れがないようしっかり締めてください。

異径金具について

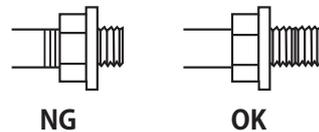
日本製のホースやノズルとハイガー製のホースやノズルを繋ぐための噴霧器用のネジです。本製品以外のホースやノズルを接続する場合にお使いください。



ストレートノズルとグリップの接続

- 使用工具
12mmスパナ

- 1 ノズルのナットを指で止まるところまで回します。



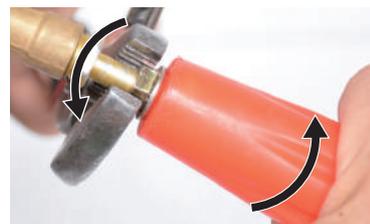
- 2 ノズルにグリップを取り付けます。



- 3 グリップを矢印の方向に止まるまで回し、固定します。



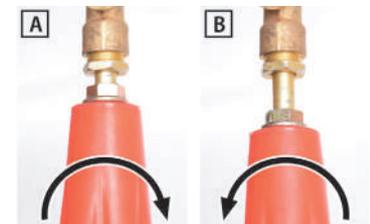
- 4 グリップを握り固定させ、ノズルのナットをスパナやペンチ等で締付ければ完了です。



注意

ノズルのナットを強く締付けすぎると、破損する恐れがありますので、ご注意ください。

- 5 グリップが回るか確認します。



グリップをA方向に回す・・・噴霧が止まる。
 B方向に回す・・・噴霧ができる。
 B方向に止まるまで回す・・・線状の噴霧になる。
 さらにその状態からA方向に回すと扇状の噴霧になる。

■ 線状



■ 扇状



ストレートノズルに噴霧ホースを接続

- 1 噴霧ホース先端にパッキンが付いていることを確認します。
- 2 噴霧ホース先端をノズルの取付口に入れ締付けます。





⚠注意

パッキン部分は必要以上に締めないでください。締めが強すぎるとパッキンが潰れ過ぎ、パッキンの役目がなくなり、漏れの原因になります。

噴霧ホースを本体に接続

- 1 噴霧ホースにパッキンが付いていることを確認します。



- 2 噴霧ホースを本体ポンプの左右の吐出口に挿込み、スパナでジョイント部を固定しながら、ホースを時計回りに回し、締め付けます。



ホースは左右どちらにも接続してご使用できます。また同時に接続してご使用できます。



⚠注意

噴霧ホース先端を吐出口に挿込むときに、工具等で締めしすぎると破損する恐れがあります。無理に締めしすぎないようにご注意ください。

吸水ホースの接続

★製品仕様と異なる場合やストレーナが吸水ホースに取付済み場合があります。

- 1 ストレーナに吸水口を取付けます。



⚠注意

ストレーナのメッシュは金属製でエッジが尖っていますので、取付時にご注意ください。

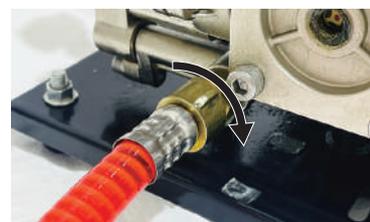
- 2 ホースバンドを通した吸水ホースをストレーナに取付け、その後ホースバンドを締め付けます。



- 3 吸水ホースを本体ポンプ側の吸水口に取り付けます。



- 4 スパナでジョイント部を固定しながら、ホースを時計回りに回し、締め付けます。

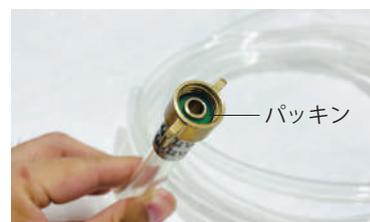


⚠注意

噴霧ホース先端を吐出口に挿込むときに、工具等で締めしすぎると破損する恐れがあります。無理に締めしすぎないようにご注意ください。

余水噴出ホースの接続

- 1 余水噴出ホースにパッキンが付いていることを確認します。



- 2** 余水噴出ホースを本体ポンプ側の余水吐出口に挿込み、スパナでジョイント部を固定しながら、ホースを時計回りに回し、締付けます。



運転前の点検

警告

- 禁止**
- エンジンが熱いうちは、給油しないでください。
 - 燃料が漏れたり、こぼれたままエンジンをかけないでください。
 - 運転時、給油時は、喫煙など火気を発生させないでください。
- 強制**
- 燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して、屋外の換気の良い場所で行ってください。
 - 燃料をこぼさないように注意してください。
 - 燃料がこぼれた場合は、直ちに拭取ってください。
 - 燃料は、無鉛レギュラーガソリンを使用してください。

注意

- 強制**
- 燃料キャップは確実に締めてください。
 - 長期間使用しない場合は、燃料タンクの燃料を抜き取り、火気のないところに保管してください。
 - 給油中、燃料タンク内に雪や水が入らないように注意してください。

燃料の点検・補充

使用燃料	無鉛レギュラーガソリン
タンク容量	0.63L

燃料の量を点検します。出荷時が入っていません。

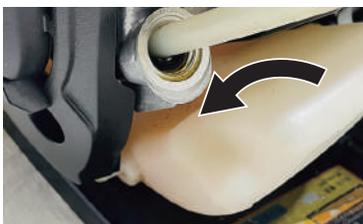
- 1** 燃料タンクキャップを外します。
- 
- 2** 液面を見て残量を確認します。
- 
- 3** 少ないときは、少しずつこぼさないように漏斗(じょうご)等を使い給油します。
- 4** 給油が終わったら燃料タンクキャップをしっかり閉めます。

エンジンオイルの点検

エンジンオイルは出荷時には入っていません。

必ず給油してください。また、工場ですり運転をしているため、若干オイルが内部に残っている場合がありますので、給油の際は、こまめにオイルゲージで確認しながら給油してください。

推奨オイル	4ストロークガソリンエンジン専用 100%化学合成油 SAE10W-30
オイル容量	0.13L

- 1** 本体を水平な場所に移動させます。
- 2** オイル給油キャップを取外し、オイルゲージを布などで拭取ります。
- 
- 3** オイル給油キャップを取付け一旦締付け、再度取外します。
- 4** オイルが、オイルゲージのオイル量範囲(中央)までであるか点検します。
- 
- 適正量はゲージの中央です。
- 5** オイル量が少ないときは、新しいオイルを補給します。
- 
- 6** 給油が終わったらオイル給油キャップをしっかり閉めます。
- 

注意

- エンジンオイルを規定量以上に給油しないでください。エンジン不調になる恐れがあります。
- こぼれたエンジンオイルは必ず拭き取ってください。

運転操作の仕方

警告

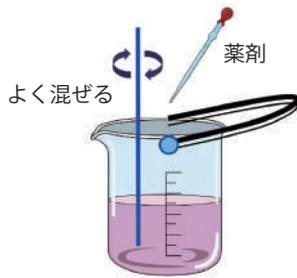
- 薬剤は、必ず薬剤の取扱説明書に従ってください。
- 前回使用した薬剤が残っていないか確認してください。薬剤が混ざると、化学変化を起こして有毒ガスが発生する恐れがあります。
- 容器に薬剤を入れるときは、必ずタンクストレーナー（こし網）を通してください。
- ベンジンやガソリンなど可燃性の液体や溶剤、園芸薬剤以外や、酸性及びアルカリ性の液体、油性薬剤、畜産用薬剤、ケルセン水和剤は絶対に使用しないでください。その他、上記のような成分を含んだ薬液も使用しないでください。

注意

- 薬剤は規定容量以上入れないでください。
- 薬剤の取扱いは十分に注意し、体に付着した場合は、よく洗い流してください。

薬剤の調合

- 1 薬剤は、別の容器で調合します。特に、水和剤はよく溶かしてください。十分溶けていないと、噴霧器の寿命や性能に悪影響を及ぼします。



容器への薬剤の充填

- 1 薬剤を入れる容器をよく洗い流してから、薬剤を入れます。薬剤は、容器内でよくかき混ぜます。こぼれた薬剤は、その場できれいに拭き取ってください。

注意

容器は必ず水洗いを行い、ゴミなどが入らないようにしてください。

ホースの接続位置関係

- 1 余水ホースは必ず薬剤タンクに戻してください。



警告



禁止

- 燃料を補給した場所でエンジンを始動しないでください。
- 換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。
- エンジン回転中及び停止後しばらくの間はエンジンやマフラーなどが熱くなっています。触れるとやけどをすることがありますので高温部に触れないでください。



強制

- 突然の噴霧を防ぐため、エンジン始動時は、ノズルレバーを閉じた状態に行ってください。
- 平坦な場所で作業を行ってください。
- エンジン始動後、異常を感じたり、予測される場合はすぐにエンジンを停止してください。
- 本機から離れるときは必ずエンジンを停止してください。

注意

エンジンを始動するときは、周囲に人や動物がいないことを確認してください。

エンジン始動テスト

噴霧する前に水をバケツ等の容器に入れて、エンジン始動テストを行ってください。

- 1 噴霧ホースは、本体から取外します。



注意

取外すときにポンプ側のジョイント部を外さないでください。スパナでジョイント部を固定しながら、ホースを反時計回りに回すと、ホースを取外せます。

- 2 空気弁に貼ってある保護シールを剥がします。



注意

保護シールを剥がさず、エンジンを起動するとポンプ内の圧力が上昇して、故障の原因になります。必ずシールを剥がしてください。

- 3** ストレーナを一旦取外します。



- 4** じょうろ等を使用して、吸水ホースの中を水で満たします。ストレーナをもう一度、ホースバンドで取付け直します。

- 5** バケツ等の容器に水を入れます。

- 6** 吸水ホース先端のストレーナを水に沈めます。



- 7** 燃料を燃料タンクに入れます。



- 8** プライマリーポンプを押します。(運転操作の仕方「エンジンのかけ方」参照)

- 9** チョークレバーを上「閉」にします。(運転操作の仕方「エンジンのかけ方」参照)

- 10** アクセルレバーをL側より少しH側(全体の1/4～1/2程度)の位置にします。



- 11** リコイルスターターを正しく引きます。(運転操作の仕方「エンジンのかけ方」参照)

- 12** 初爆(ブルン!というかきりそうな音)が確認できたら、チョークレバーを下「開」にします(運転操作の仕方「エンジンのかけ方」●初爆が確認できた場合」参照)。

- 13** 再度、リコイルスターターを引くとエンジンがかかります。

- 14** コックを回して、アクセルレバーをH側に全開にしたときに吐出口から水が出ることを確認します。



⚠注意

水圧が安定しない場合は、ポンプ内に空気が残っている可能性があります。しばらくエンジンを動かして、空気を抜くか、エンジンを停止して、吸水ホース内に水が入っているか確認してください。入っていない場合は吸水ホース内に水を入れてください。

エンジンのかけ方

出荷時には燃料とエンジンオイルは、入っていません。給油後に操作をしてください。

⚠注意

空運転防止のため、必ず容器に水または薬剤を入れてから、エンジンをかけてください。

■エンジンが冷えているときのかけ方

※外気温には関係なく、エンジンそのものが冷えている場合です。翌日の再始動などがこれに当たります。

- 1** グリップが閉まっていることを確認します。



- 2** フィルターカバーの裏にあるプライマリーポンプを約10回押し、燃料を引き出します。リターンパイプに燃料が入った時点でOKです。



- 3** チョークレバーを上「閉」にします。(エンジンが冷えている場合) この時、写真のように確実に上までレバーを上げてください。



- 4** アクセルレバーをL側より少しH側(全体の1/4～1/2程度)の位置にします。



- 5** 本機をしっかりと保持し、リコイルスターターロープを引きます。



※ロープを引き出すと止まる位置があるので、そこから素早く引きます。おおよそ60～70cm引きます。(ロープは一杯に引ききらないでください。) 引きが少ないとエンジンはかかりません。

⚠️ 注意

チョークレバーを上「閉」の状態、リコイルスターターを引き続けると燃料を吸い込みすぎて、エンジンが始動しにくくなります。万が一、濡らしてしまった場合は、web取説の「困ったときの対処法（点火プラグの点検）」をご覧ください。

- 6** 初爆……「ブルンッ」というエンジンがかかりそうな音が一回だけ起こるまで、5回繰り返します。

⚠️ 注意

- ロープを最後まで引き切らないでください。
- 引いたリコイルスターターは途中で放さずに、ゆっくり戻してください。

👉 リコイルの引き方ポイント

※写真は、別機種



- ① 良い例：約70cm引いている。
- ② 良い例：穴に対してロープが真っ直ぐ。
- ③ 悪い例：抵抗がありエンジンがかかりにくく、ロープが摩擦で切れます。

● 初爆が確認できた場合

- 1** チョークレバーを下「開」にします。



- 2** リコイルスターターを素早く数回引きます。

※エンジンが冷えているときや燃料切れで補充したときは、10回以上ロープを引くことでエンジンがかかりやすくなります。

- 3** 運転操作の仕方のエンジンのかけ方「●エンジンがかかったら」に進みます。

● 初爆と同時に始動した場合

- 1** チョークレバーを下「開」にします。



- 2** 運転操作の仕方のエンジンのかけ方「●エンジンがかかったら」に進みます。

■ エンジンが温まっているときのかけ方

※外気温には関係なく、エンジンそのものが温まっている場合です。再始動などがこれに当たります。

- 1** プライマリーポンプを繰り返し押します。(5回前後)リターンパイプに燃料が流れることを確認します。



- 2** チョークレバーを下「開」にします。



- 3** 本機をしっかり保持し、リコイルスターターを少し重くなるまでゆっくり引き、そこから真っすぐに素早く60～70cm引張ります。エンジンがかかるまで数回繰り返します。



※引く距離が短いとエンジンはかかりません。

- 4** 運転操作の仕方のエンジンのかけ方「●エンジンがかかったら」に進みます。

● エンジンがかかったら

- 1** エンジンがかかったらすぐチョークレバーを下「開」にします。



- 2** エンジンが始動したら、アクセルレバーはそのままの位置で10秒程度、暖気運転をします。

- 3** さらにアクセルレバーをL側にし、エンジンを低速で20秒程度、暖気運転にします。



- 4 エンジンが止まりそうなら、アクセルレバーをH側に少し倒します。

- 5 噴霧作業をする場合は、アクセルレバーをH側にし、エンジンを高速運転にします。



エンジンがかからないとき

下記をご確認ください。

- 燃料がキャブレターに行き渡っていない。リターンパイプに燃料が流れているか確認します。(運転操作の仕方「エンジンのかけ方」参照)
- エンジンオイルが入っていない。または少ない可能性があります。
- チョークレバーを上「閉」にしていない。(運転操作の仕方「エンジンのかけ方」参照)
- エアフィルタが汚れている。(点検・整備の仕方「エアクリーナー」参照)
- リコイルの引き方が正しくない。(運転操作の仕方「エンジンのかけ方」参照)
- 燃料が行き過ぎて、点火プラグを濡らしてしまっている可能性があります。web取説「困ったときの対処法(点火プラグの点検)」を参照ください。

エンジンの止め方

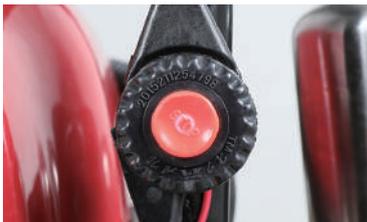
- 1 グリップを閉めます。



- 2 アクセルレバーをL側にし、エンジンを低速運転にします。



- 3 エンジン停止ボタンを長押しするとエンジンが停止します。



ポイント

エンジン停止直後の再始動には、プライマリーポンプを押さずにチョークレバーを下「開」にし、リコイルスタータロープを引いてください。

⚠️ 注意

エンジン停止後しばらくは、エンジン、マフラー等の高温部に触らないでください。やけどの恐れがあります。

使用後のお手入れ

⚠️ 警告

容器内に薬剤を入れたまま、保管しないでください。

⚠️ 注意

- ・ 薬剤が容器、ホース、ノズルなどの内部に残っていると、薬害を起こす危険がありますので必ず抜いてください。
- ・ 残った薬剤は下水や河川、池、沼等には絶対に捨てないでください。
- ・ 屋内の直射日光が当たらず、凍結しない、子供の手の届かない場所に保管してください。

お手入れ

使用後は毎回お手入れを行ってください。

- 1 グリップを閉じます。
- 2 アクセルレバーをL側にし、エンジンを低速運転にします。
- 3 エンジン停止ボタンを長押しし、エンジンを停止します。
- 4 エンジン冷却後、バケツ等の容器に約2Lの水を入れて、吸水ホース先端のストレーナを容器に沈めてから、エンジンを始動します。
- 5 容器に水を入れた状態で、エンジンを始動します。
- 6 グリップを開き、水がなくなるまでノズル内の洗浄を行います。
- 7 エンジンを停止し、噴霧ホースを外し、ホースの水を抜きます。

⚠️ 注意

- ・ 容器内に残った薬剤や洗浄水は、薬剤の製造者、販売者の指示に従って処理してください。
- ・ 作業終了後は、容器、ノズル、ホース、ポンプ内の洗浄を必ず行ってください。洗浄した水も残らないように全て抜いてください。

※詳細はWEB取説をご覧ください。

本規約は、ハイガー(以下「弊社」とする)を経由して販売させていただいた該当商品に関して保証する内容を明記したものです。弊社商品には商品保証書等は同梱しておりません。お客様の購入履歴や保証情報は弊社にて管理・保管しておりますのでご安心ください。返送いただく場合商品を再梱包していただく必要がございますので、梱包材はお捨てにならないようお願いいたします。

1. 保証の期間

商品発送日(ご来店引取の場合ご来店日)から1年間といたします。業務用・営業用として使用される場合、保証期間は6ヵ月といたします。保証期間を超過しているものについては、保証の対象外となり有償対応となります。商品発送日より7日以内の初期不良にあたる場合、送料・手数料弊社負担にて対応いたします。

2. 保証の適用

- ・お買い上げいただいた弊社商品を構成する各部品に、材料または製造上の不具合が発生した場合、本規約に従い無料で修理いたします。(以下、この無料修理を「保証修理」とする)往復送料や出張修理を行った場合の出張料は、お客様のご負担となります。
- ・保証修理は、部品の交換あるいは補修により行います。保証修理で取り外した部品は弊社の所有となります。
- ・本規約は、第一購入者のみに有効であり、譲渡することはできません。ご購入された年月日、販売店、商品、製造番号の特定ができない場合、保証が受けられない可能性があります。
- ・本規約の対象となる商品とは、日本国内で使用し故障した商品とします。日本国外に持ち出した時点で保証は無効となります。

3. 保証適用外の事項

- (1)純正部品あるいは弊社が使用を認めている部品・油脂類以外の使用により生じた不具合
- (2)保守整備の不備、保管上の不備により生じた不具合
- (3)一般と異なる使用場所や使用方法、また酷使により生じた不具合
- (4)取扱説明書と異なる使用方法により生じた不具合
- (5)示された出力や時間の限度を超える使用により生じた不具合
- (6)弊社が認めていない改造をされたもの
- (7)地震、台風、水害等の天災により生じたもの
- (8)注意を怠った結果に起きたもの
- (9)薬品、雨、雹、氷、石、塩分等による外から受ける要因によるもの
- (10)使用で生じる消耗や時間の経過で変化する現象(退色、塗装割れ、傷、腐食、錆、樹脂部品の破損や劣化等)
 - (11)機能上影響のない感覚的な現象(音、振動、オイルのにじみ等)
 - (12)弊社または弊社が認めているサービス店以外にて修理をされた商品
 - (13)使用することで消耗する部品または劣化する部品(ゴムを使用する部品、皮を使用する部品、樹脂を使用する部品、スポンジ類、紙類、パッキン類、ギヤ・ベアリング等の干渉する部品、ボルト、ナット、ヒューズ、モーターブラシ、チェーン、バルブ内部の部品、バネ、潤滑油、燃料、作動油、刃または先端部品、クラッチ、シャープイン等の緩衝部品、ワイヤ、バッテリー、点火プラグ等)
- (14)保証修理以外の、調整・清掃・点検・消耗部品交換作業等
- (15)商品を使用できなかったことによる損失の補填(休業補償、商業損失の補償、盗難、紛失等)

4. 別扱いの保証

部品メーカーが個別に保証している部品については部品メーカーの保証が適用されます。

5. 保証修理の受け方

まずはお問い合わせフォームにて弊社へご連絡をください。
またはお近くの修理協力店へご連絡をしてください。
症状・使用状況を伺い、手続方法をご案内させていただきます。

6. 注意事項

- ・動作点検を行ってから出荷しておりますので、燃料やオイル、水分が残っていたり、多少の傷や汚れ等が付いている場合があります。
- ・部品の在庫がない場合、お取り寄せにお時間をいただくことがあります。
- ・仕様変更などにより同時交換部品が発生する可能性があります。
- ・仕様変更などによりアッセンブリーでの供給しかできない場合があります。
- ・生産終了品につきましては、部品供給次第で修理不可能な場合があります。
- ・無在庫転売者(送り先が毎回違う購入者)の場合、転売者より購入した商品の場合、保証は無効となります。また発覚次第転売者への措置を取らせていただきます。

- アフターサービスについて■
1. 販売機種が対象となります。※弊社で商品をお買い上げの方に限らせていただいております。
 2. 生産終了品につきましては、部品供給次第で修理不可能な場合があります。
 3. 保証期間(1年間)を過ぎたものは、保証期間内におけるご使用回数に関係なく、すべて有償となります。
 4. 修理の際の往復の送料はすべてお客様ご負担となります。
 5. 修理協力店へご依頼の際は、直接修理協力店に修理代をお支払いください。